

情報活用による高齢者シェアダイニングの構築

研究開発代表者： 日下 菜穂子 同志社女子大学 現代社会学部 教授

共同研究機関： 京都府立医科大学 大学院医学研究科
株式会社ベネッセスタイルケア ベネッセ シニア・介護研究所

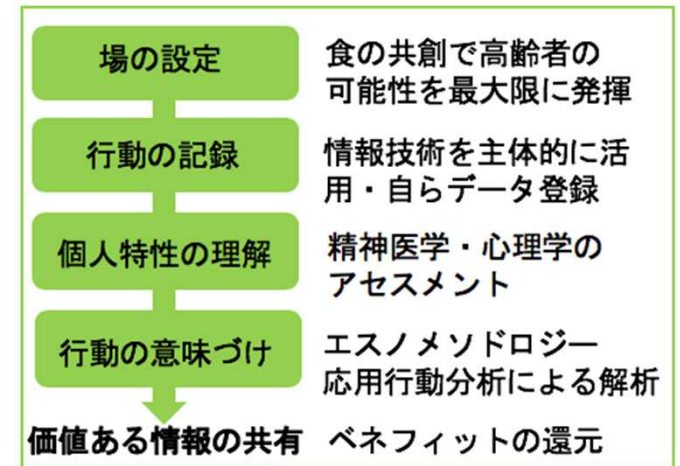


目的： 心理学の手法を用いて、高齢者や認知症の人が、食材や自分の食行動に関する情報を活用しながら調理し食べ、情報発信を通じて人とつながり、健康や生活の質を向上させる新しい食空間（シェアダイニング）を創出する。

研究概要：

食をめぐる行動は、人の根源的なニーズを追求する協働的な活動であり、世代を超えて伝えられてきた行為である。現在では高齢者の孤立と世代間の分断によりその特徴が失われつつある。このような状況を改善するためには、食にまつわる価値や経験を共有することができる以下の研究をふまえた場を提供する必要がある。

- 1) 購入した食材を販売店内で調理して食べるスペースと、自身の購買履歴や食事内容をフィードバックする情報活用システムを用意する。
- 2) そのスペースにおける高齢者の食への意欲、他者交流が促される条件、要素技術を明らかにする。
- 3) ICTリテラシーの低い高齢者への情報提供の方法や、セルフセンシングによる情報発信および共有のシステムを形成する。
- 4) シェアダイニングが食行動に関するリビングラボとして機能し、様々な技術や知見を持った事業者や研究者がアイデアを持ち込んで検証することができるようにする。



シェアダイニング
■購入した食材を店内で調理して食べるスペース
■登録した自身の購買履歴や食事内容をフィードバック、自ら提供したデータで利益が還元されるシステム



Creation of "humane service" industries

Development of SHARE DINING using information technology

Project Leader : Nahoko KUSAKA Professor, Department of Contemporary Studies,
Doshisha Women's College of Liberal Arts

R&D Team : Kyoto Prefectural University of Medicine
Senior research scientist, Benesse Institute for Research on KAIGO



Summary :

The aim of this research is to build a new community of eating experiences named SHARE DINING using psychological techniques. Senior citizens and other adults with dementia can cook, eat and connect with each other and improve their quality of life using ICT.

Outline of the Project:

To solve the problem of isolation in older people, this project will be conducted using the following criteria:

1. Developing the place and ICT system
2. Exploring the component technology which makes older people's motivation to food and communication improve.
3. Developing a sharing system to provide information for older people with low ICT literacy.
4. SHARE DINING functions as a living lab for eating design where various people and specialists can bring their ideas and explore them.

http://dwc-gensha.jp/HP_kusaka/wonderfulcollege/

